

階上地区大型魚礁設置適地調査

次長 馬 場 勝 彦

技師 村 上 圭 郎

I 目 的

沿岸漁業構造改善事業により逐次近代化されつつある漁業の実態にかんがみ、三八地区沿岸漁民による漁業生産の安定と向上を図るため広く漁民に利用されしかも投資効果が期待できる箇所に大型魚礁を設置するにあたり、その適地判定の基礎となる自然的経済的条件を調査した。

II 調査内容

(1) 調査期間

昭和41年9月28日から今年9月30日まで

(2) 調査区域

八戸市鮫角から青森、岩手両県々境までの距岸約2,000m以遠の沖合海面

1. 調査海面面積 192 Km²
2. 底質調査点 87点
3. 水深測定点 222点
4. 地形測定航走距離 156 Km

(3) 調査船

調査船 試験船東奥丸(38.35トン D120HP)

(4) 調査事項

1. 自然的条件 水深、底質、海底地形、流向流速
2. 経済的条件 漁船、漁法、既設漁場、操業努力、漁獲高、その他

(5) 調査方法

1. 水深地形 魚群探知機による
2. 底 質 丸川式採泥器による
3. 調査計画図 5万分の1の地図を1,000m区間に枠目に構成
4. 経済的条件 既存資料および各漁協からの聞き取りによる。

III 調査結果

八戸市鮫角から青森岩手県境にかけた共同漁業権漁場の沖合1,200mまでを縦横1,000mのマス目に分画して調査したが、海底は一般に平坦で、県境近では、稍々複雑な地形が構成されており、天然魚礁の存在が確認された。

底質は大半が細砂および貝殻混りの細砂で、底質が岩の場所は県境から西に約2Km、沖側に7Kmの天然魚礁の部分と、鮫角沖約2Km、大蛇沖約5Km、鮫角沖10Km、小舟渡沖14Kmの地点に僅かにあるに過ぎない。

調査海域南寄りでの潮流は $1 \sim 1\frac{1}{2}$ ノットと推測され、操業上の支障は考えられなかった。

陸上調査による5漁協の漁場利用状況、操業隻数、漁業生産状況、その他の諸条件を勘案し、大型魚礁を投入する場合の適地としては、県境の基点Aから5630、6,000mの点 7000mの点、基点Eから5630、6,500mの点、7,500mの点の4点を結んだ線内と考えられた。